

## (令和2年度) 地域医療課題解決演習

科目担当責任者 コーディネーター	全学教育推進機構長 佐藤 洋一 教授 医学部救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野 下沖 収 教授		
担当講座・学科 (分野)	(医学部) 内科学講座脳神経内科・老年科分野、脳神経外科学講座、救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野、リハビリテーション医学科 (歯学部) 口腔医学講座予防歯科学分野、補綴・インプラント学講座摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野、法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 (薬学部) 臨床薬学講座地域医療薬学分野		
担当教員	(担当教員) 佐藤 洋一 全学教育推進機構長 (医学部) 前田 哲也 教授、小笠原 邦昭 教授、下沖 収 教授、西村 行秀 教授、高橋 智弘 講師、(歯学部) 岸 光男 教授、小林 琢也 教授、熊谷 章子 准教授 (薬学部) 高橋 寛 教授、松浦 誠 特任教授 <協力> 矢巾町健康長寿課関係者の皆様、演習訪問先等関係者の皆様		
対象学年	全学年 (全学部)	期 間	通期
区分・時間数	演習 12.0 時間 (全 8 回)	単位数	1 単位

### ■ 学習方針 (演習概要等)

患者 (対象者) を中心とする地域医療の実現のため、地域社会における医療課題についてグループワークを行う、多職種連携 PBL 科目である。関連施設等の訪問、関係専門職や、対象者 (住民) へのインタビュー、アンケートとその分析などをグループで行い、学部・学年を超えたディスカッションの上で提言をまとめる。

### ■ 教育成果 (アウトカム)

患者 (対象者) や専門職チーム、地域社会との関係における各専門職プロフェッショナルリズムを理解し実践する力を身につける。  
施設等の訪問やインタビュー等を行い、グループ内でのディスカッションを経て提言をまとめる過程を通じ、他者尊重に基づきチームで協働する力を身につける。併せて、多職種 (専門職) 連携の重要性を理解し、自職種の責務の理解に基づく自己主導型学習力を身につける。  
(ディプロマ・ポリシー)

医学部 : 1, 2, 4, 6, 8 歯学部 : 1, 2, 3, 5, 9 薬学部 : 1, 3, 4, 5, 6, 8 看護学部 : 1, 2, 3, 7, 8

### ■ 到達目標 (SBOs)

1. 対象とする医療課題に関する地域の現状と問題点を捉え、説明できる。
2. グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる。
3. 多分野にわたる幅広い情報収集ができる。
4. 課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくりにおける各職の役割が説明できる。
5. 自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる。

### ■ 成績評価方法

最終発表会を含め演習への参加態度は第 1 回講義で各自に示すルーブリックにより評価する。(80%)  
演習内容の理解度はポートフォリオにより評価する。(20%)

### ■ 事前学修時間・内容

各回実施前にメールで事前課題の指示あり。事前学修は各回 1 時間以上を要する。  
事前学習結果は、演習当日に持参すること。内容については、授業の中でフィードバックすることとする。

### ■ 特記事項・その他

開催日 : 別途調整のうえ指定 対 象 : 全学年 (全学部) 会 場 : 矢巾キャンパス・矢巾町役場等  
\* 受講希望者はガイダンス配布資料、学内掲示を確認のうえ 4 月 24 日までに履修届を提出のこと。  
\* なお、30 分以上の遅刻は欠席とする。

実施日程

月日	時 限	内容／到達目標	担当教員	会場
第1回 6月 予定	5限 予 定	オリエンテーションと概要講義  1. 科目の目標と全体構成を理解し説明できる。 2. 日本における当該課題の概要を理解し説明できる。 3. 地域における当該課題の概要を理解し説明できる。	機構長 下沖 収 教授 小笠原 邦昭 教授 前田 哲也 教授 西村 行秀 教授	矢巾キャンパス
第2回 6月 予定	5限 予 定	グループワーク（課題理解の共有）  1. 地域における当該科目の概要理解について、グループ内検討により、関わり方の相違点・共通点を確認し自分の言葉で説明できる。 2. メンバーが理解を共有できるよう、必要なコミュニケーションを図ることができる。	小林 琢也 教授	矢巾キャンパス
第3回 7月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー  1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。	熊谷 章子 准教授	矢巾町
第4回 8月 予定	5限 予 定	グループワーク（振り返り）  1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。	高橋 寛 教授	矢巾キャンパス
第5回 9-10月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー  1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。	松浦 誠 特任教授	矢巾町
第6回 11月 予定	5限 予 定	グループワーク（振り返り）  1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。	下沖 収 教授 高橋 智弘 講師	矢巾キャンパス
第7回 11月 予定	5限 予 定	グループワーク（プレゼンテーション作成）  1. グループ内で各専門領域を学ぶそれぞれの知見を合わせ、協働作業によりプロダクトを作成する過程で、多職種連携の重要性を理解し多職種を尊敬する謙虚さ、自己主導型学習を身につける。	岸 光男 教授	矢巾キャンパス
第8回 12月 予定	5限 予 定	検討発表会・まとめ  1. 当該課題への解決策を提案でき、医療人である自らの役目をも説明できるようになる。 2. 自他尊重に基づき、質疑応答その他において適切なコミュニケーションを図ることができる。	機構長 下沖 収 教授 小笠原 邦昭 教授 前田 哲也 教授 西村 行秀 教授	矢巾キャンパス